

# 2014年度 第2四半期 決算説明会

2014年11月13日

タツタ電線株式会社

本資料における将来の予測等に関する各記述は当社が現時点で入手可能な情報に基づく判断や仮定によるものであり、リスク及び不確実性が含まれております。

したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

**タツタ電線株式会社**

総務部 経理・財務担当

TEL:06-6721-3011 FAX:06-6726-2300

<http://www.tatsuta.co.jp/>

# タツタグループについて

JXホールディングス株式会社

↓ (32.41%)

タツタ電線株式会社

通信電線事業

機器用電線事業

機能性材料事業

ファインワイヤ事業

システム・フォト事業

中国電線工業(株)

(75%)

立井電線(株)

(TEMM)

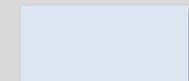
TATSUTA ELECTRONIC  
MATERIALS MALAYSIA  
SDN. BHD.

タツタ環境分析センター(株)

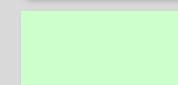
(常州タツタ)

常州拓自達恰依納電線  
有限公司

\*セグメント区分



電線ケーブル



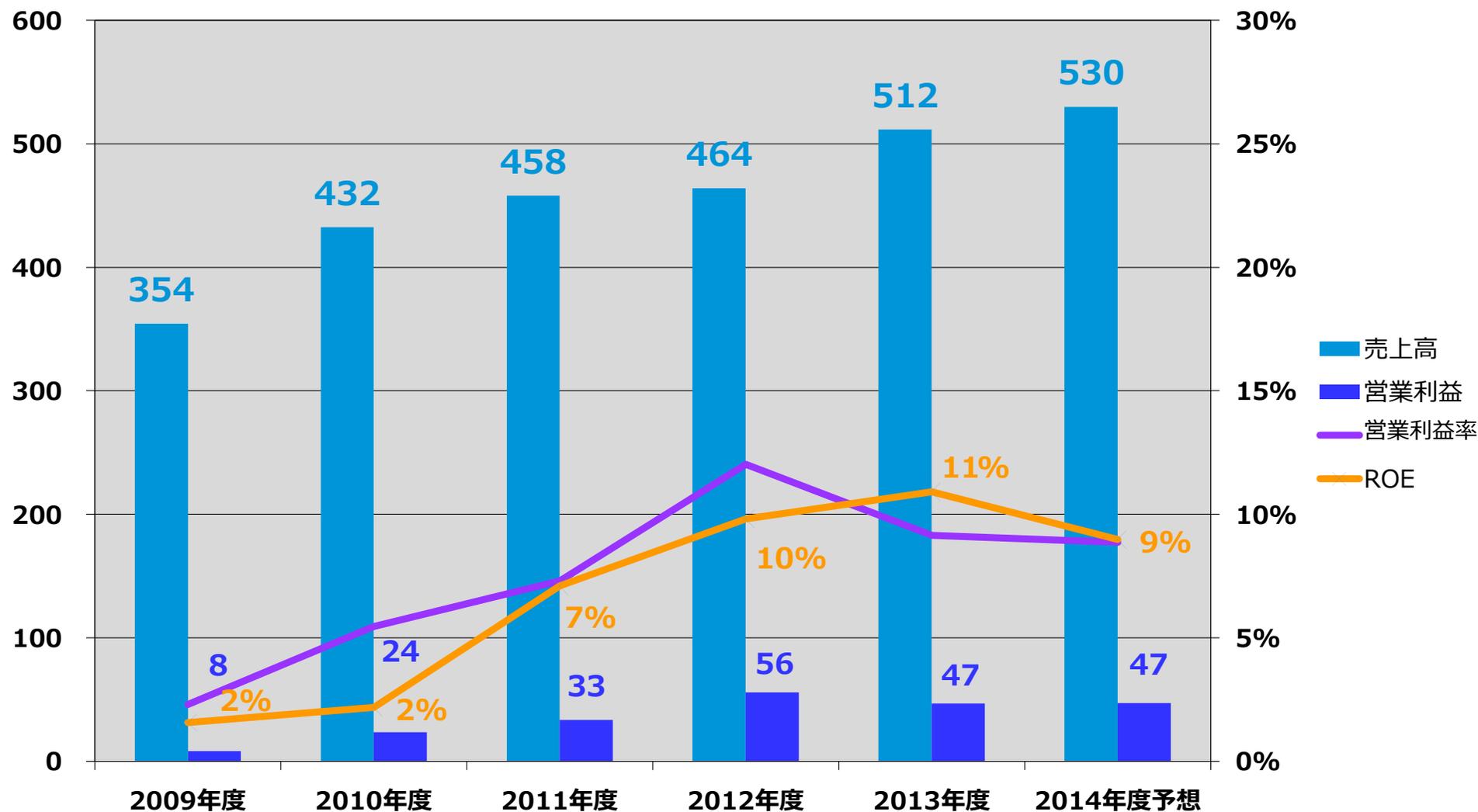
電子材料



その他

# 連結経営成績推移

億円



# 第2四半期（上期）決算の特記事項

- 携帯端末向けフィルムの販売量は対前年同期比で2割以上増。引き続き過去最高を更新。
- ローカル材料メーカーとの競争激化に伴う価格対応を図った結果、現状シェアは維持したものの、電子材料セグメント営業利益は+9%増。
- 年度ベースでも世界携帯端末台数の伸びに応じた販売量増を見込むが、同セグメント営業利益は横ばい。

**主要前提（下期）；銅建値750千円/ t、為替104円/\$**

## 【電線ケーブル】

- インフラ電線関連需要は、建設、電販向け等を中心に堅調に推移。この傾向は当面継続期待。
- 電力向けは、底打ち、低位推移が続く。

## 【電子材料】

- 中国系ブランドの伸長等を含め携帯端末需要の安定増加を背景に、量的には堅調な伸びが続く。
- 低価格帯市場の拡大、競争環境の激化により、販売価格は低下傾向にある。

# 利益変動要因（上期実績対前年同期）

## 【売上高】+24.3億円

- 電線ケーブル；+12億円  
⇒ 立井電線加入、銅価高など
- 電子材料；+12億円  
⇒ フィルム売上増

## 【営業利益】+3.5億円

- 電線ケーブル；+0.5億円)  
⇒ 建設・電販向け販売増
- 電子材料；+2.4億円  
⇒ フィルム販売増+14、同販価ダウン▲7、改良試作費▲4

# 利益変動要因（年度予想対前年実績）

## 【売上高】+18.2億円

- 電線ケーブル；+1.4億円  
⇒ 立井電線加入、電力向け減
- 電子材料；+17.4億円  
⇒ フィルム売上増

## 【営業利益】+0.2億円

- 電線ケーブル；▲0.2億円  
⇒ 建設・電販向け増、電力向け減
- 電子材料；▲0.6億円  
⇒ フィルム販売増+21、同販価ダウン▲14、改良試作費▲6
- その他；+0.4億円（医療向け光部品事業の伸長等）

# 利益変動要因（下期予想対上期実績）

## ※電子材料セグメント分

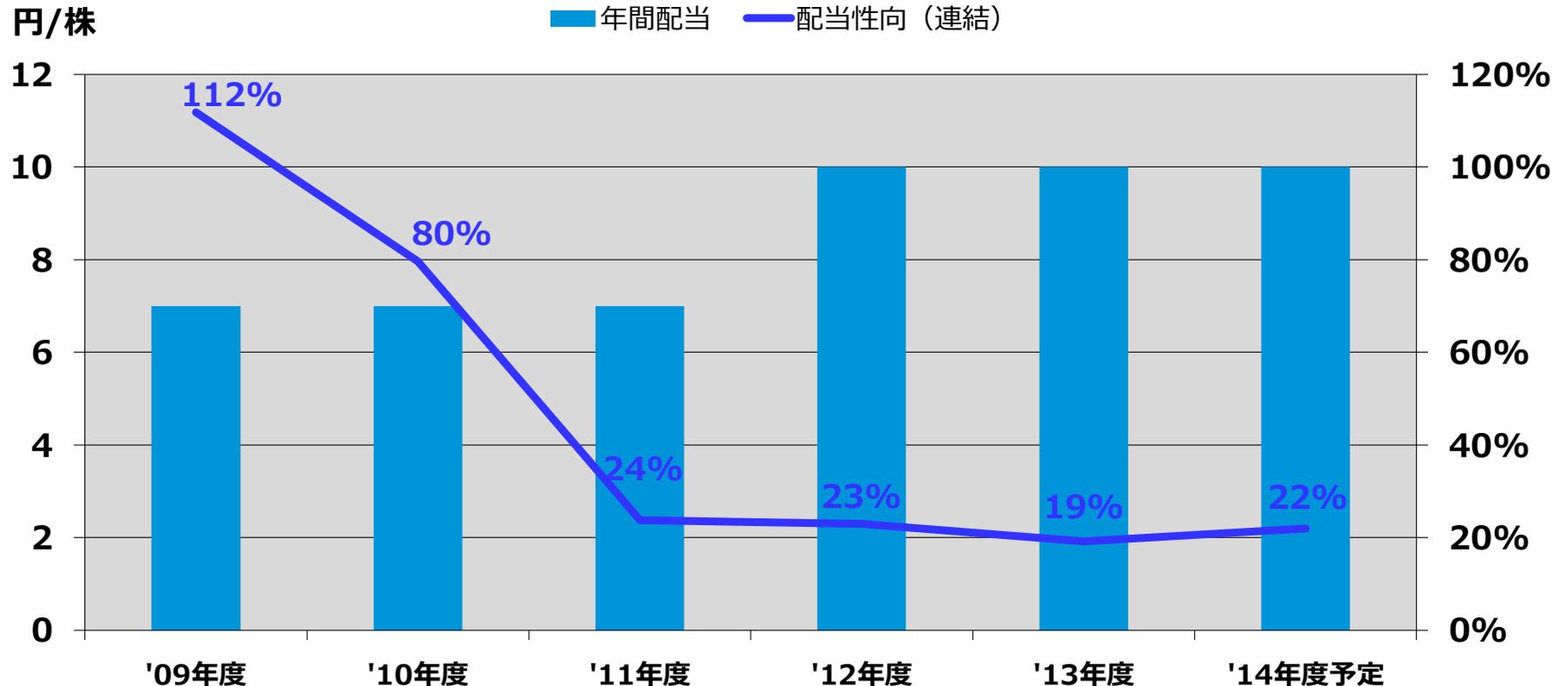
### 【セグメント営業利益】▲12.8億円

- ⇒ フィルム販売増減▲9、同単価減等▲3ほか
- ⇒ 季節要因を含め概ね▲15%の販売量減を想定

# その他 財務関連特記事項

- (1) 当上期は大きな特別損益等の発生はなし
- (2) 上期には目立った設備投資なく一旦キャッシュが積み上がり。
- (3) 下期の主な設備投資予定（25億円）
  - ①電線ケーブル； 操業効率化関連投資  
FA用細物製造設備投資など
  - ②電子材料； 周辺、新規事業および基盤技術開発投資  
フィルム市場対応投資  
フィルム製造効率化投資

# 配当実績推移、予定



- 会社の持続的な成長により、中長期的に株主価値を向上させることを目標とし、安定的な配当の継続を基本方針としております。

# 下期事業運営の基本方針

# 電線ケーブル (インフラ向け)

## 以下による継続的な事業基盤強化

- ① 電力、建設電販分野での安定確実な受注確保
- ② オリジナル商品の開発および販路拡大

# 電線ケーブル (FA向け)

- 
- ① 立井電線との統合効果の着実な実現
  - ② 次年度以降の中国市場展開を視野に入れた各種準備推進（マーケティング、製造技術開発等）

## 1. フィルム事業の高収益維持

次年度以降モデルへの採用を睨みつつ、現状シェアの維持を最優先した取り組みを進める。

- ⇒ 廉価製品（競合対応品）の開発、品揃え拡充
- ⇒ 差別化製品（高機能製品）の適宜投入
- ⇒ 原材料費、製造コスト低減の本格推進

## 2. その他電子材料製品（ペースト、FW）収益積上げおよび将来収益拡大に向けた各種施策の検討

## 3. 周辺、新規事業開発（医療、FA向けを含む）の推進